

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

<目次>

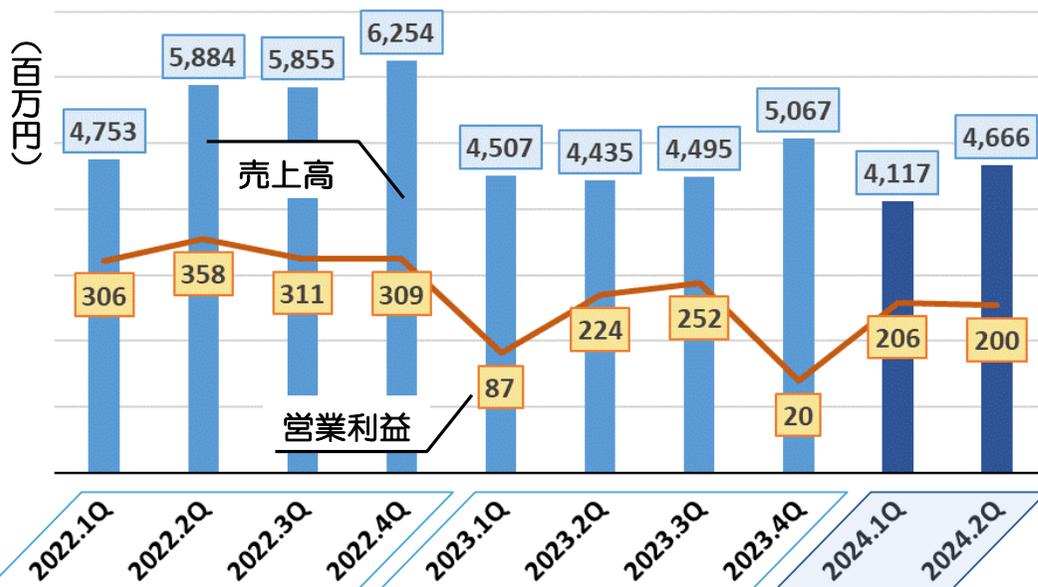
1. 2025年3月期 第2四半期 決算概要
2. 通期連結業績予想、配当予想
3. TOPICS

2024年11月14日

1. 2025年3月期 第2四半期 決算概要

2024年度第2四半期 連結決算概要

(単位：百万円)	2023年度 第2四半期累計	業績予想 24年8月9日付	2024年度 第2四半期累計	増減 (前年同期比)	増減 (業績予想比)
受注高	8,976	-	9,506	+530	-
売上高	8,942	9,200	8,783	△158	△416
営業利益	311	310	406	+94	+96
経常利益	453	300	308	△145	+8
親会社株主に帰属 する当期純利益	284	170	209	△75	+39



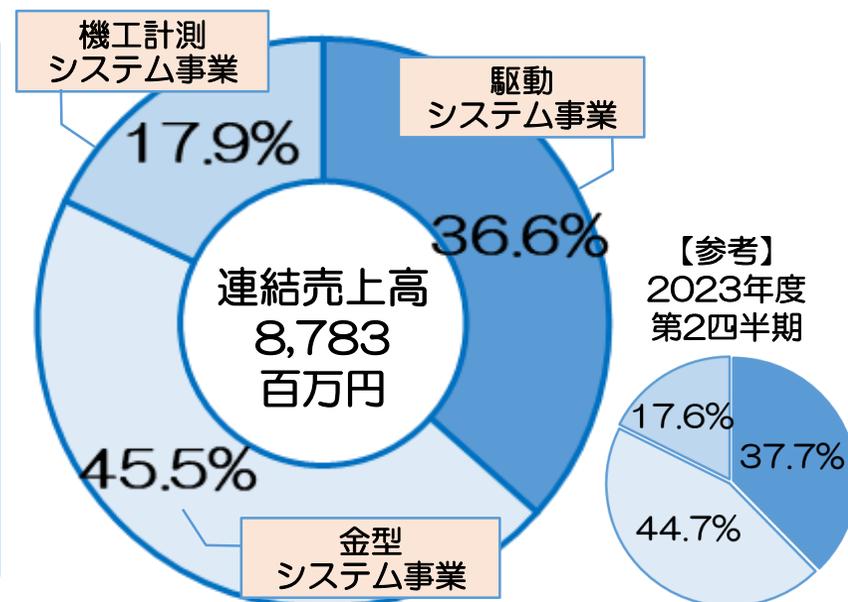
- ◆ 半導体・液晶関連装置の市況回復の遅れにより、駆動システムの売上高が前年同期比で減少。金型システム事業および機工計測システムはほぼ横ばいであったが、全体で減収となった。
- ◆ 営業利益は、ドイツ子会社の赤字幅が縮小した駆動システム、ロイヤリティ収入による金型システム事業の増益が寄与して全体としても約1億円の増益で着地。一方、経常利益は為替差損 約1億円の影響が響いて減益に。
- ◆ 受注高については、市況の回復が見えつつある駆動システム、省エネ補助金等の後押しがあった機工計測システムを含む3セグメント全てで、前年同期比で増加となった。

単位：百万円	受注高 (前年同期比)	売上高 (前年同期比)	営業損益 (前年同期比)
駆動システム事業	3,125 (+138)	3,212 (Δ165)	39 (+42)
金型システム事業	4,420 (+187)	4,000 (Δ8)	465 (+45)
機工計測システム事業	1,966 (+210)	1,577 (Δ6)	Δ79 (+7)

◆駆動：半導体・液晶関連装置市場の回復が遅れ、受注は前期から増加したものの、足元の売上は減収に。また、業績が低迷しているドイツ子会社は前期から赤字幅が大幅に縮小した一方で、停滞する中国市場の煽りを受けて中国子会社の業績が悪化。それでも、前期の赤字計上から黒字化を達成。

◆金型：大口顧客の生産調整を受けて車載用モーターコアは減収。一方で、家電用モーターコアが堅調に推移したこと、金型の売上が増収となったことで全体の売上高は前期比ほぼ横ばいに。営業利益率は11.6%と、前期から大幅に改善。

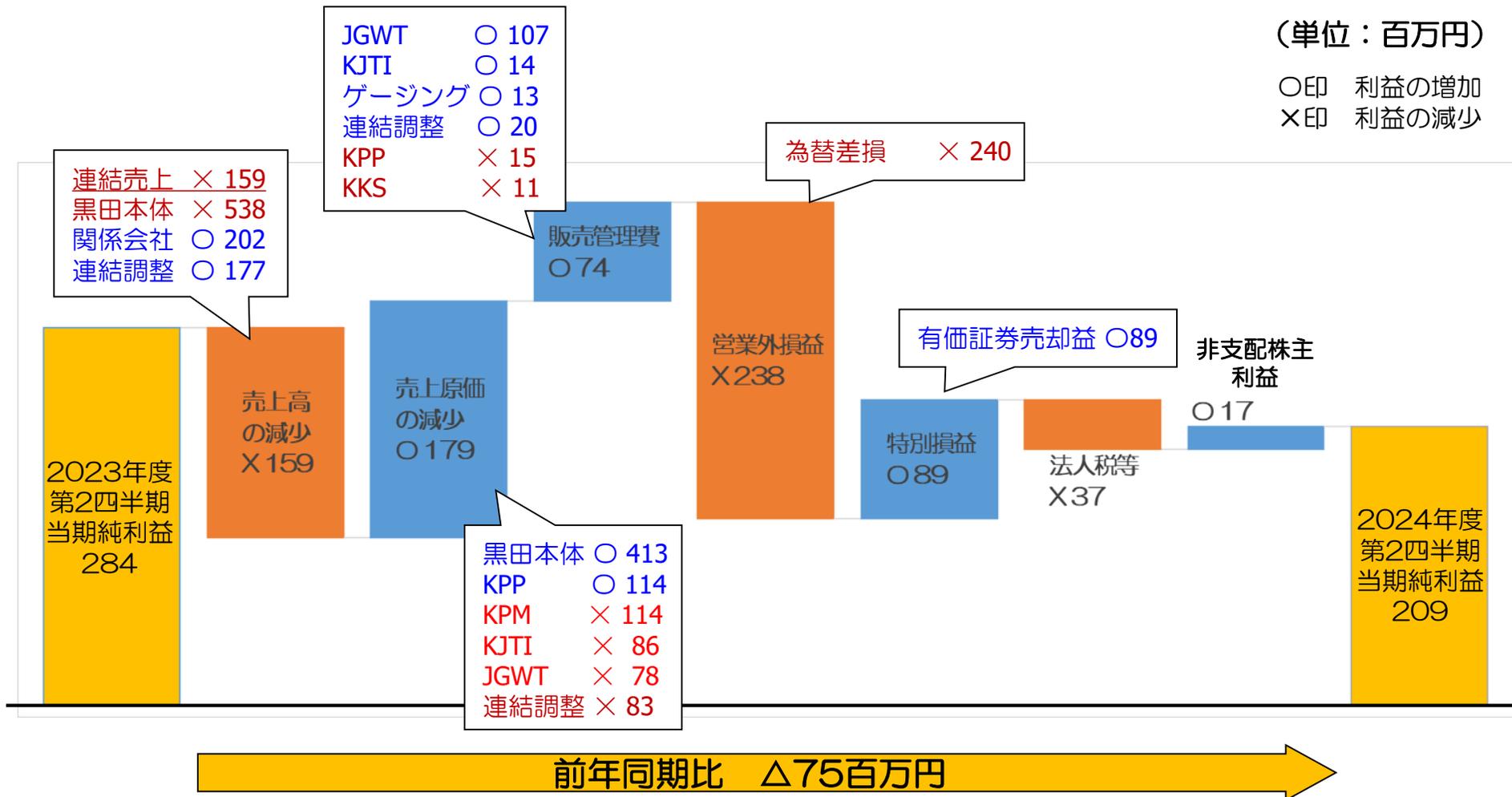
◆機工計測：自動車業界に於ける設備投資回復の遅れや精密減速機関連メーカーの在庫調整等の影響を受けて、売上高は前期とほぼ同じ水準となり、上期は赤字が継続。一方で受注は省エネ補助金の助けもあり回復傾向が見られ、前期比12%の増加。



前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位：百万円)

○印 利益の増加
×印 利益の減少



黒田本体 ○ 413
KPP ○ 114
KPM × 114
KJTI × 86
JGWT × 78
連結調整 × 83

JGWT ○ 107
KJTI ○ 14
ゲーシング ○ 13
連結調整 ○ 20
KPP × 15
KKS × 11

連結売上 × 159
黒田本体 × 538
関係会社 ○ 202
連結調整 ○ 177

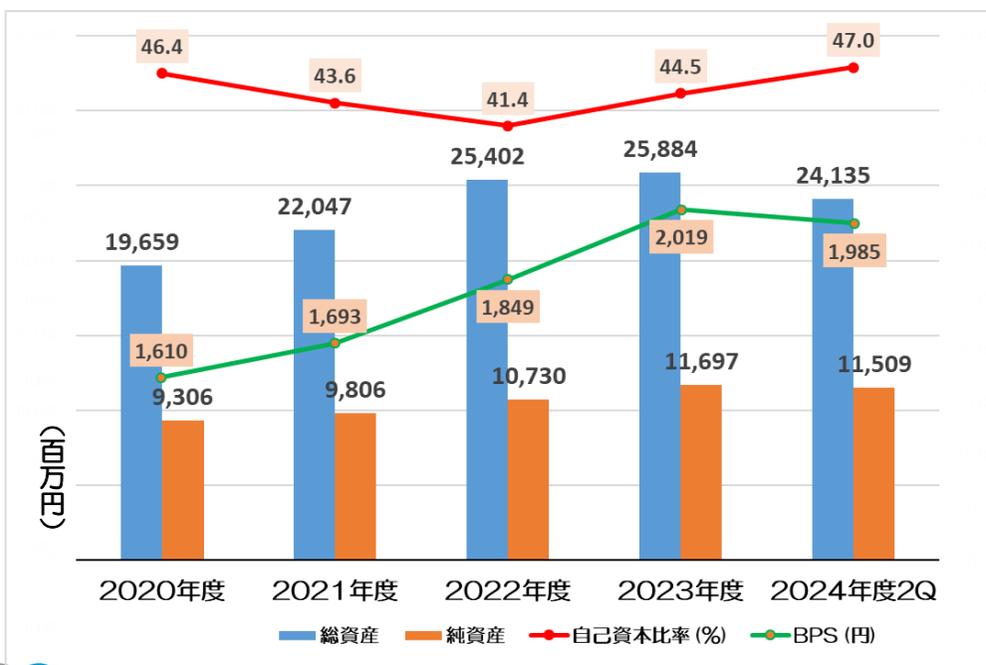
為替差損 × 240

有価証券売却益 ○ 89

前年同期比 △75百万円

連結貸借対照表

	2023年度 (2024年3月期)	2024年度 第2四半期	増減
総資産 (百万円)	25,884	24,135	△1,748
純資産 (百万円)	11,697	11,509	△188
負債合計額 (百万円)	14,187	12,626	△1,560
自己資本比率 (%)	44.5	47.0	+2.5
1株あたり純資産【BPS】 (円)	2,019	1,985	△33

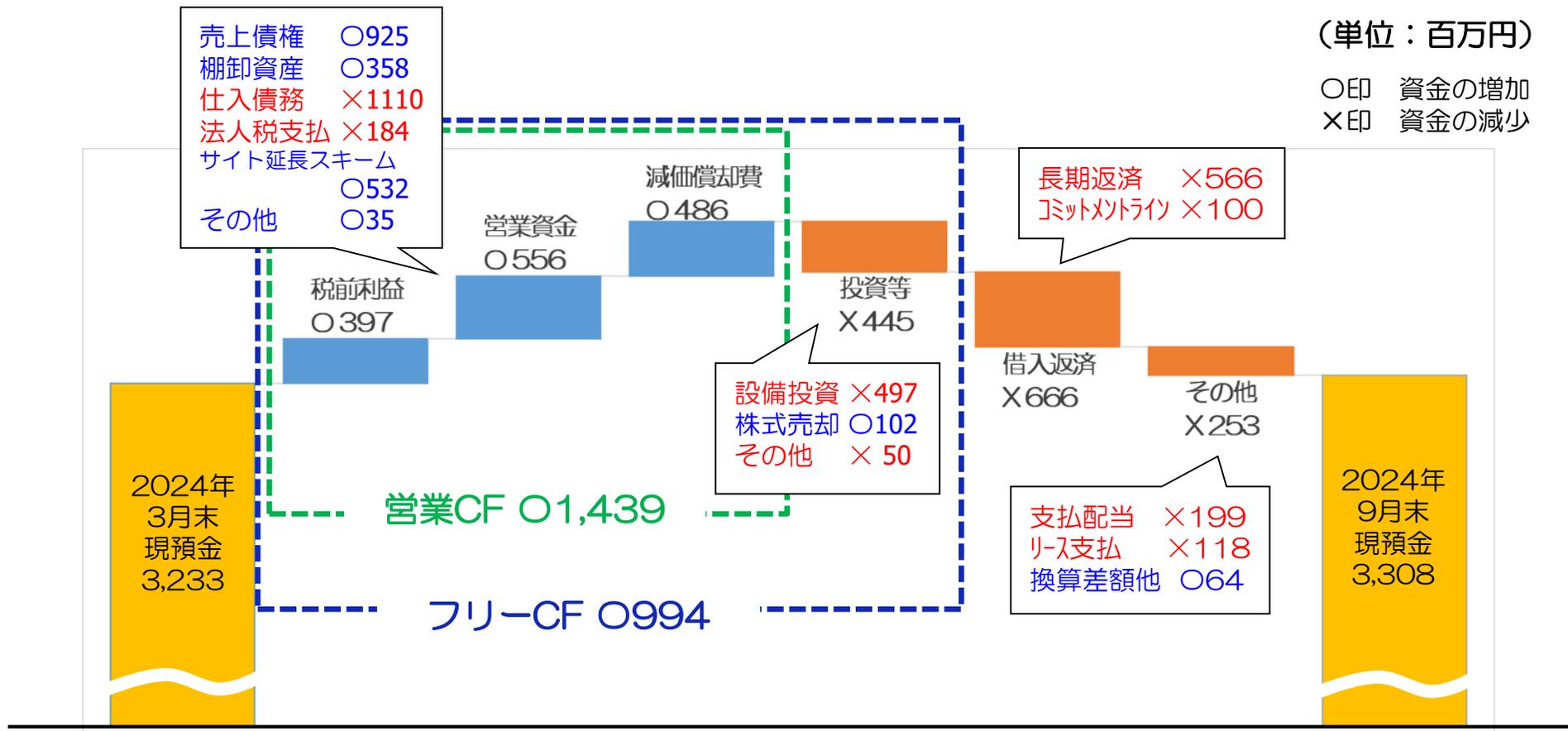


- ◆ 総資産：前年度末比 △1,748百万円の減少
 →流動資産の減少 △1,406百万円 (売掛金等)
 →固定資産の減少 △342百万円 (投資有価証券等)
- ◆ 純資産：前年度末比 △188百万円の減少
 →株主資本の増加 +41百万円 (資本剰余金等)
 →その他包括利益の減少 △208百万円 (有価証券評価差額等)
- ◆ 負債：前年度末比 △1,560百万円の減少
 →流動負債の減少 △903百万円 (仕入れ債務等)
 →固定負債の減少 △656百万円 (長期借入金等)
- ◆ 自己資本比率：47.0% 前年度末比 2.5pt増加

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因

(単位：百万円)

○印 資金の増加
×印 資金の減少



前年度末比 +75百万円

2. 通期連結業績予想、配当予想

2024年度通期連結業績、配当予想

単位記載の無い 項目は百万円	前年度通期実績 (24年3月期)	2024年度 第2四半期累計予想 24年8月9日付	2024年度 第2四半期累計実績	今年度通期予想 24年8月9日付
売上高	18,504	9,200	8,783	20,000
営業利益	583	310	406	1,100
経常利益	845	300	308	1,050
親会社株主に帰属する 当期純利益	498	170	209	700
1株あたり 年間配当金(円)	35円00銭	—	—	38円00銭
配当性向(%)	25.1%	—	—	30.9%

- ◆ 2025年3月期の通期連結業績予想につきましては、駆動システム事業の主要顧客である半導体・液晶関連装置市場、金型事業の主要顧客であるEVおよびHV, PHVを含む電動車市場の先行きが不透明であり、現在その影響を精査している段階であるため、2024年8月9日に公表した数値を変更しておりません。今後の業績動向を見ながら、修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主要ターゲットである半導体製造装置市場は、顧客の在庫消化が徐々に進みつつあるものの、需要回復が遅れており、市場動向の先行きは不透明である。 ◆ 半導体市況に左右されない顧客基盤の構築を目指すとともに、顧客の要望に柔軟に対応できる自動化生産ラインの整備を進める計画。同時に、業績低迷が続くドイツ子会社の生産および営業体制の再構築に取り組む。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ グローバルでEV市場は低迷する一方、HVおよびPHVへのシフトが鮮明になりつつあり、電動車市場全体は今後も大きな成長が期待される。当社はグローバルでのプロジェクトも堅調に獲得できているが、中国での競争は激化している。 ◆ L社の生産調整等により車載用モーターコアの売上高は一時的に伸び悩む一方、家電用モーターコア製品は好調に推移している。 ◆ 前期に長野工場第8工場が竣工し、現在第9工場建設中。今後も更なる増産体制の構築に向け必要な設備投資を順次実施していく計画。
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム商品、要素機器ともに需要は緩やかな回復が見込まれ、市場開拓と併せて、受注高および売上高は回復を見込む。 ◆ 新製品であるロータリー研削盤を上市し、11月初旬に開催された日本国際工作機械見本市（JIMTOF2024）にも出展。既存製品を含む販路拡大、特にアジアを中心とした海外市場の開拓に取り組むことで売上高を拡大し、低収益体質からの脱却を目指す。

3. TOPICS

新製品・ロータリー研削盤の上市

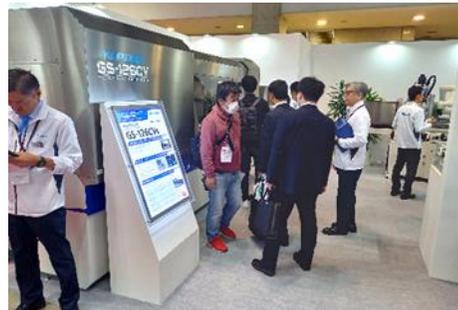
- ◆ 機工・計測システム事業部の新製品、ロータリー研削盤「GSR-600」を上市。
- ◆ これまでの当社平面研削盤の実績を活かした最新機種。高い剛性、加工の精度と効率性、操作性を実現し、環境負荷の低減にも成功。半導体関連の脆弱材（特にセラミックス）の加工等、新たな顧客ニーズの取り込みを狙う。



ロータリー研削盤「GSR-600」

JIMTOF2024への出展

- ◆ 2024年11月5日（火）から10日（日）に開催された第32回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2024）に出展。機工・計測システム事業部の商品をメインに展示。
- ◆ 新製品・ロータリー研削盤「GSR-600」、平面研削盤+ハイドロリックツール(HT)による加工自動化の実演、HTの多様な採用事例等を紹介。

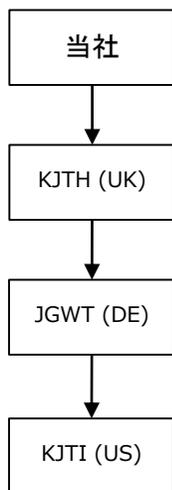


当社展示ブースの様子

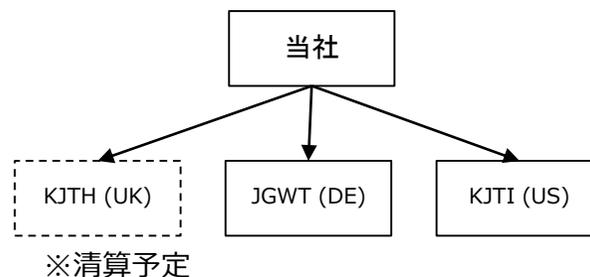
国内外子会社の資本再編

- ◆ 1973年の創業以来各種コンプレッサーの販売事業を展開してきたクロダイインターナショナル株式会社を、業務効率化のため2024年10月1日をもって吸収合併。
- ◆ ボールねじ等の製造販売を行うJenaTecグループの資本再編を決定。特定子会社である英国のKURODA JENA TEC HOLDINGS LTD.（以下、KJTH）を解散および清算するとともに、ドイツ子会社 Jenaer Gewindetechnik GmbH（以下、JGWT）および米国子会社 KURODA JENA TEC, INC.（以下、KJTI）を、当社が直接経営する体制に再編。この再編を通して、当社グループの一層の業務効率化、経営管理の強化を目指す。

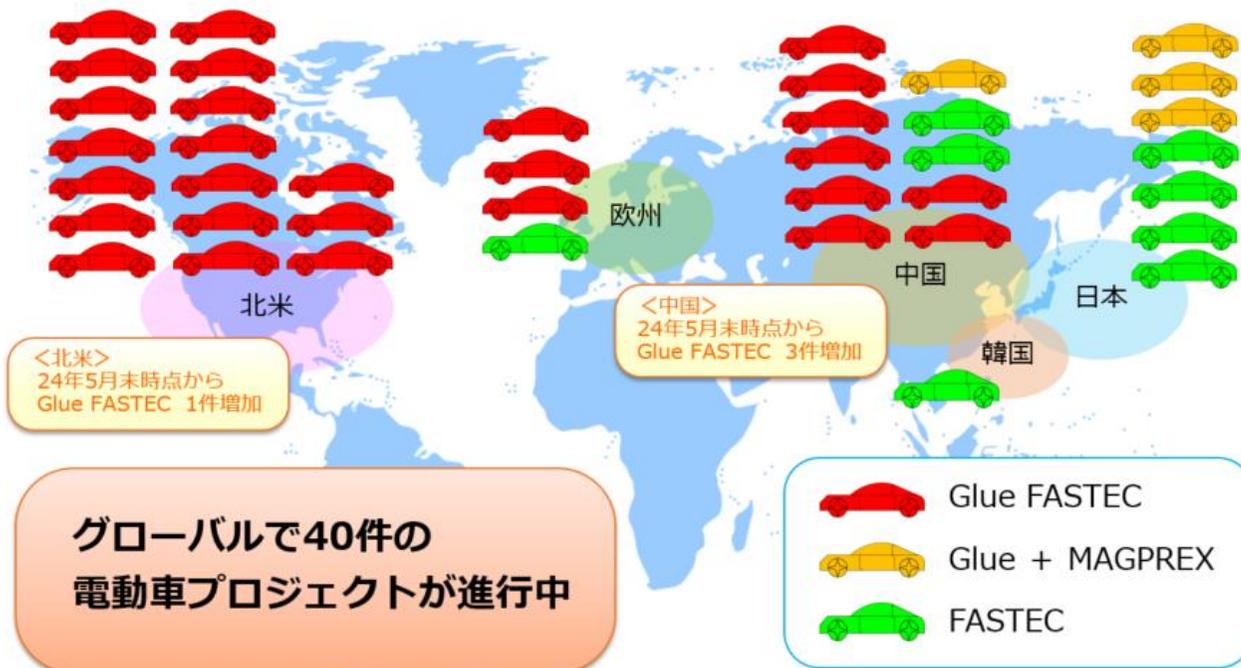
【現状】



【再編後】



現在進行中の電動車プロジェクト (24年10月末時点)



長野工場



今後の事業展開を視野に、23年12月の第8工場および倉庫棟の竣工に続いて、工場建屋の増設・改修、プレス機を含めた設備の増強を継続中。

紅忠黒田ラミネーション(株)



一部顧客のモータコアを製造。今後の生産拡大に向けて、設備増強、人材確保、生産管理システムの整備などを推進。

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>